

NPO法人 世界のきずな文化交流協会

伊勢志摩で活動する「NPO法人 世界のきずな文化交流協会」は、国際平和に貢献することを目的に、さまざまな視点から課題にアプローチ。誘客プロジェクトや地域コーディネーター養成、伝統文化の継承支援、海外インバウンド支援、異文化の共生イベントなど多くのプロジェクトやイベント事業を実施し、活動舞台を海外にまで広げ、取り組んでいます。



代表 塩本 智幸さん

お問い合わせ

「NPO法人 世界のきずな文化交流協会」
志摩市志摩町和具570番地
TEL 050-3479-0050

志摩半島に事務局がある「世界のきずな文化交流協会」は、平成25(2013)年に任意団体として結成され、翌年にNPO法人を設立。伊勢志摩地方の活性化の一助として、地域コーディネーターを養成し、地域資源の魅力再発見に貢献しています。また、東アジアや東南アジアを中心に海外で文化交流や国際支援を行っています。代表者である塩本 智幸さんにお話を伺いました。

——地域活性化事業について、お聞かせください。

塩本：魅力ある地域へと導くため、旅行社やマスコミに直接働きかけて、地元や

近隣を観光する「マイクローリズム」を盛り込んだプランを提唱しています。結婚30年目を祝う「真珠婚」をテーマにした「伊勢志摩2万人誘客プロジェクト」では、真珠養殖の盛んな志摩市への宿泊を含めた誘客で、当協会の役員と認定講師が伊勢・鳥羽・志摩を案内しました。旅行者のためのガイド育成にも、力を入れています。

——地域コーディネーターとして機能する「伊勢志摩おもてなし案内人」ですね。

塩本：単なる誘客のためだけでなく、観光振興に寄与できる人材をめざしています。観光ガイドの枠を超え、「ひとづくり・まちづくり・地域を誇る文化の醸成」といった意義を案内人の心構えに組

み込んでいます。地域の歴史や文化に対する幅広い知識を身に付けることが、地域に誇りを抱く市民や産業人の育成につながりますし、地域をPRすることが地域愛への再認識につながります。また役員が所属する任意団体「日本文字文化機構(併設・文字文化研究所)」の取り組みを応用し、講座を開いたりして、漢字の魅力を伝えています。古代文字からメッセージを読み解いたり、漢字の文化を通じて、地域の芸能や伝統、神事の分野への関心を高めています。文字については、道徳を交えながらその成り立ちを話すと、意味も理解してもらいやすいのです。海外で教えることもあります。

——海外での活動について教えてください。

塩本：インドネシア・バリ島スカワティ地区の高校において、日本の「自然への畏敬」と「命の尊さ」を学ぶ課外授業を実施し、日本とインドネシア共和国との文化交流を行っています。

それ以外の国でも水が大事です。東南アジアでの水環境と食料、農業に関する調査を行い、国内外のロータリークラブや諸団体と連携して現地を支援する国際協力事業を開始しました。雨水を溜める大きな水槽やトイレなどを設置しています。また水研究機関「一般社団法人アクアラボ」と一緒に自然環境の改善

や水衛生支援のためにモニタリング事業も続けています。

——外務省が進める対日理解促進交流プログラム「JENESYS」にも協力されていますね。

塩本：おもに台湾や中国、東南アジアの学生を招いて、日本の良さや文化を知ってもらおうと受け入れています。伊勢神宮を参拝したり、真珠養殖を見学したり、コンビニにも案内し、買い物をしてもらうといった日本の日常体験も取り入れています。

——事業の規模が大きいですし、分野も多岐に渡りますね。

塩本：現在、19人いる会員は、アーティストや音楽家、議員や企業のトップといろんなタイプの人が集まっています。それぞれが得意とするところで動いていて、活性化を図ったり、いろんな課題を解決に導いています。問題や要望が出たときに、どうすれば良いかを擦り合わせて、現地と会員をつないでいくのがわたしの役割です。

——国内外の旅行者を伊勢志摩で案内したり、海外へ応援に出たり、異国間の文化交流を盛んにして、互いに尊重できる関係性を築いています。

インタビュー：中村 元美



2万人誘客プロジェクトで神宮参拝※



「伊勢志摩おもてなし案内人」の養成講座※



海外で「古代文字」の授業※



水環境の支援プロジェクト※



「JENESYS」で台湾からの訪問※

※印の写真は取材先から提供していただきました